

## 「アンケートで把握したご心配」に対する「学校からの回答」

2020.5.15

### 1. 登下校の実施方法

- (観点：感染予防) ・手つなぎなし      ・一列      ・マスクを付けます。
- (観点：感染予防) ・通学は、最大13人であり、「密」状態とは言えません。
- (観点：不審者対応) ・分散としなくてもよかったですので、クリアしています。  
・見守りパトロールをします。

### 2. 校内環境

- ① 教室環境 人数が多いのは、6年生と4年生です。
  - 6年生：図書室を教室とし、ダニ等の除去のための薬剤散布も済ませました。
    - ・空間としては、教室よりも1.5～2倍近い容量です。
    - ・座席を互い違いに配置して、1.5メートル以上の間隔がとれました。
  - 4年生：棚などを撤去し、教室空間を広めました。
    - 座席に座った人の間隔で、1.4メートルが確保できました。
- 他の学年は、これ以上の低密度と距離が確保されています。

### 3. 感染予防

- ① 飛沫 3つの「密」を避ける実践
  - 児童玄関での混雑を避ける指導に立ち、手洗い場所も工夫をします。
  - 校内 どの場所に行っても換気できているように徹底します。
  - 教室 換気（・常時小さな換気 ・1時間以内毎に大きな換気）
- ② 接触 共有使用物（扉の取っ手などの建具、ブロックなどの教具）の消毒
  - 全体は校務員と管理職、教室内のことは担任等が中心で行います。
- 児童の学校生活の中での注意
  - 養護教諭からの注意・指導に基づき、全教職員が共通認識して行います。「気付けば、密であった」といった状態が起らないように児童への指導を重ねます。（これに特化した「保健便り」により共通指導）
  - 通常の手洗い指導に加え、活動の事前事後の手洗いの徹底をします。
  - 給食開始時から、机上のアルコール消毒も一層徹底します。

#### 4. 学校生活

学習、生活リズムや精神面の両面を含んで、学校生活が徐々に軌道によっていくようにするイメージを持ち、心に余裕を持ちながら、焦らずに児童に対していきます。

これまでのリズム《月：Z o o m 火・木：メール 金：課題提出》に以下を加えます。

① 学校再開に向けた大きなリズム（以下は、あくまでも現時点の考えです。）

- ・ 1 8 日からの週 登校可能日（1回：20日 2時間）
- ・ 2 5 日からの週 登校可能日（2回：27日、29日 各2時間）
- ・ 6月1日からの週については、5月の様子を鑑みられ、丹波市教育委員会が指示くださいます。あくまでも勝手なイメージを思い描いてみるならば、この週からは、時間制限を設けながらも、毎日登校できれば嬉しいと思っています。

以上、丹波市の5月までの構想に基づきつつ、その後6月からの動きについても若干、学校としてどのようなイメージを持っているのかをお示しいたしました。

② 授業は、まず、これまで課題として進めてきた内容や進度、理解の程度を把握します。

そのうえで、充分定着していると考えられるところは時間を軽減して行い、重点的に学ぶ必要があると捉えたところについては、じっくり行うように考えます。

一律に同じ時数を確保しようとして、児童に負担をかけたり、教師に圧迫を加えたりするのではなく、傾斜配分するようなイメージで、ゆとりを持った指導にします。

再び登校ができなくなるような事態になるかもしれません。

その際は、宿題のバランスもよく考えて出しますし、デジタルコンテンツの使用割合やZ o o m学習の内容精度を上げたりできるよう、今から準備をし、備えていきます。

#### 5. 学校で感染者が出た時の対応

国、県、丹波市というレベルでどのようにするのか決まっています。その内容や流れに沿って対応していきますので、「見通し」はあります。

児童本人の場合、児童の家族の場合、教職員本人の場合、教職員の家族の場合…、それぞれの対応がありますし、また、濃厚接触の範囲等のことも勘案する必要があります。こうしたこともきちんと定められていますので、これに従っていきます。

仮に、児童や教職員本人が陽性ということならば、濃厚接触者の調査を行い、一定期間の閉鎖措置がとられるということになります。